

## (7) 北 陸



北陸地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりつつある。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直している。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

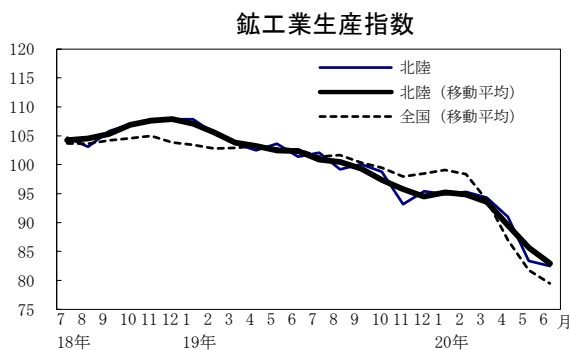
### 前回からの主要変更点

	前回 (令和2年5月)	今回 (令和2年9月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	↑
鉱工業生産	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	下げ止まりつつある	↑
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	このところ持ち直している	↑
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	感染症の影響により、弱い動きとなっている	→

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は下げ止まりつつある。

4-6月期には、電子部品・デバイス、電子デバイス等が増加したことにより、増加した。化学は、プラスチック等が減少したことにより、減少した。生産用機械は、金属加工機械が減少したことにより、減少した。金属製品は、建築用金属製品が減少したことにより、減少した。繊維は、減少した。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。  
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1-3 月期	4-6 月期	4月	5月	6月
電子部品・デバイス	15.3	12.9	2.4	4.4	▲5.8	0.0
化学	14.0	0.2	▲0.2	▲5.0	8.4	▲4.1
生産用機械	11.8	▲7.4	▲11.9	▲1.1	▲15.7	▲10.0
金属製品	8.1	▲7.2	▲1.9	▲0.9	▲10.2	2.6
繊維	6.9	▲1.8	▲11.8	▲1.2	▲9.4	▲6.8
鉱工業	100.0	▲1.0	▲9.7	▲3.5	▲8.4	▲1.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4-6月期、6月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直している。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDE I (消費))

4月は前月比6.4%減、5月は同1.0%減、6月は同7.3%増となった。

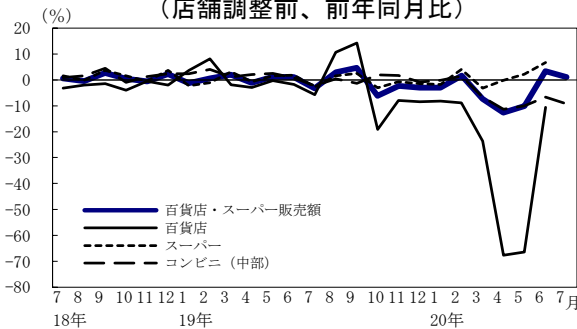
### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4、5月は、緊急事態宣言等に伴う休業や営業時間の短縮が実施されるなか、衣料品等が減少したことにより、前年を下回った。6月は、衣料品等が減少し、前年を下回ったが、緊急事態宣言解除に伴う営業再開等により、減少幅は縮小している。

スーパーは、4～6月期は、飲食料品等が増加したことにより、前年を上回った。

7月の百貨店・スーパー販売額は、前年同月比1.1%増となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2020年4-6月	2020年4月	5月	6月	7月
RDE I (消費*1)	▲11.5	▲6.4	▲1.0	7.3	—
百貨店・スーパー(*2)	▲6.3	▲12.6	▲10.1	3.4	1.1
百貨店(*2)	▲47.4	▲67.7	▲66.4	▲10.6	—
スーパー(*2)	2.9	▲0.2	2.2	6.7	—
コンビニ(*2)	▲9.3	▲11.4	▲10.0	▲6.6	▲9.2
乗用車(*3)	▲33.7	▲34.1	▲46.1	▲22.2	▲13.6
(季節調整値)(*3)	▲18.8	▲11.6	▲15.9	26.8	20.1

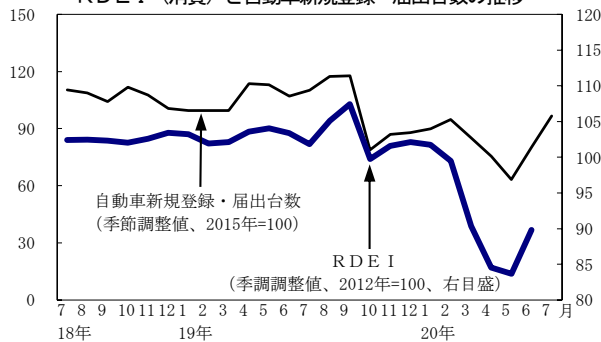
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値、2020年7月はお速報値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

RDE I (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

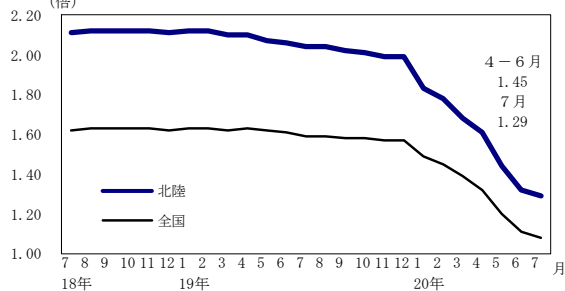


## 3. 雇用情勢

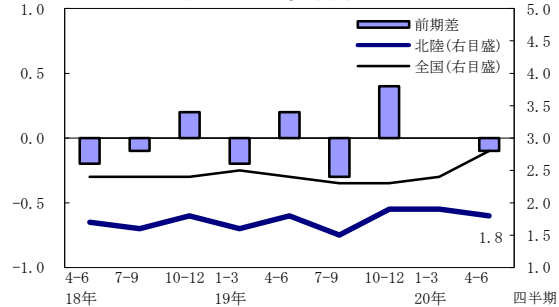
雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。

有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



(ポイント) 完全失業率 (季節調整値)



(備考) 内閣府にて算出、季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和2年7月調査) 景気判断理由の概要

7. 北陸

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・ 3か月前は旅行に出掛ける客が全くいなかったが、現在は地元客を中心に国内客がやや旅行に出掛け、利用がある状況である。しかし、前年同期比でみるとまだまだの状況である(テーマパーク)。
			・ 前月にお中元及びクリアランス需要があった反動で今月は苦戦している。23~26日の4連休は期待した数値には届かなかった。前半の2日間はGo To Travelキャンペーンの効果もあり徐々にぎわったが、後半は新型コロナウイルス感染者増加の報道があり、外出を控えた人が多く失速した。月間の売上は前月よりマイナス幅が拡大し、前年比でマイナス8%の見込みである(百貨店)。
			・ 来客数の減少に加え、レジ袋有料化で客単価も下がっている(コンビニ)。
	企業 動向 関連		・ 緊急事態宣言が出ていたときと比較して業務用の需要が確実に回復傾向にある。とはいえ新しい生活様式が唱えられるなか、完全に元に戻るだろうとは考えていない(食料品製造業)。
		×	・ 個人客も法人客も、購入者がほとんどいないという話をいろいろと聞いている(不動産業)。 ・ 新型コロナウイルスの感染拡大による自粛や経済活動の停滞により、個人消費のみならず企業にも大きな影響が出ており、受注、販売共に厳しい状況が続いている(プラスチック製品製造業)。 ・ 新型コロナウイルスの感染が依然として拡大しており、先行きの見通しが悪化している(建設業)。
雇用 関連		・ 求人の動きに変化はないものの、求職者の数が多少増えているようにみえる(人材派遣会社)。 ・ 新型コロナウイルスの影響で企業の営業活動の縮小による業績悪化は避けられず、雇用についても採用を差し控える動きが拡大しつつある(民間職業紹介機関)。	
その他の特徴 コメント			： 県民宿泊プランのおかげで週末を中心に予約が入っている。しかし、新型コロナウイルスの感染者が増えると途端にキャンセルが増え、予断を許さない状況にある(観光型旅館)。 ： 求人票の受付数が前年同時期に比べて2割程度少ない(学校[大学])。
先行き	家計 動向 関連		・ 新型コロナウイルスの影響で戻りかけた夜の客が再び遠のきそうである。昼の客やテイクアウト販売でしのいでいるが、単価も来客数も下がっている(一般レストラン)。
			・ 相場高の状況が変わらないと予想するなかでは、現状と同様の推移になるとみている(スーパー)。
	企業 動向 関連		・ 2~3か月先の受注状況からみて変わらない(金属製品製造業)。
			・ 一部業種に持ち直しの動きがみられるが、自動車関連、工作機械メーカーの受注は弱含んでいる。三大都市圏を中心に新型コロナウイルスの感染者数が増加傾向にあり、経済活動が停滞するおそれがある(金融業)。
	雇用 関連		・ 現状では新型コロナウイルス感染症による影響の収束が不透明である(職業安定所)。
その他の特徴 コメント			： 今後受注が増えると予想する(化学工業)。 ×： 秋は1年で県外団体旅行が最も多い時期になるため、今年は最も下落幅が大きくなると予測している(高級レストラン)。

(D I) 現状・先行き判断D I (北陸)の推移 (季節調整値)

